

1 ロウイング・漕艇・ボート

Rowing

狭義の、つまり一般的な競技スポーツとしてのロウイング、ボート競技の定義、範疇を把握しておこう。ロウイング[rowing]とは、英語で、“漕ぐこと”を意味する。(一般には「ローイング」と表記することもあり。本書では、漕艇譜Ⅲ(2009)から、「ロウイング」を基本表記としている。)

日本語では漕艇(そうてい)、ボート競技、競漕(きょうそう)などと呼ばれる。1艇のチームは普通、クルー[crew]と呼ばれ、漕手(そうしゅ)と舵手(だしゅ; コックス)で構成される。漕手はオールを持って漕ぐ人で、舵手は舵(ラダー)の操作と漕手への指示を行う。舵手のいない艇種(=ボートの種類)もある。

2 競漕艇(ボート, 艇)

Boat, Shell

競技スポーツの「ロウイング(競漕・漕艇)」で使われるボートは、艇(てい)、競漕艇、シェル(shell。卵の殻や貝のこと。船体が卵の殻のように丸く薄いことに由来)、スカル(scall。語源はオールの種類)などと呼ばれる。

公園に浮かぶ、いわゆる「お椀ボート」との違いは、「座席が前後に動き、脚力を利用して漕ぐ」点である。また、競漕艇は、まっすぐ速く進むために、軽量で細長く、船底が丸い。また、オールの支点となるオールロックが、舷側から張り出したアウト・リガー(外に張り出した艀装)に取付けられている。

競技上の競漕艇は、以下のように「定義」されている。

「舵手付き/または舵手なしの水に浮かぶ艇を、1人、または、2人以上の漕手が、艇の進行方向に背を向けて座り、オールを第1種の単純なテコとして使って、筋力で推進すること。漕艇に使用する艇では、動く部品の軸を含め、力の負荷部品はすべて艇体にしっかりと固定されていなければならない。ただし、漕手のシートは艇の軸に沿って動くことができる。」(FISA・1985年特別総会採択/月刊漕 No. 230/p. 11-12)

つまり、水に浮かんで進む排水型のボートで、水中翼や潜水艇は不可。推進構造に奇抜なアイデアは禁止、という意味である。(もし革新的な装置を国際大会などに導入する場合は、事前の届出、1年以上の市販が必要となる。)

寸法については、11.9mを超える場合は分割構造が必須となるほか、最短長さは7.20mの規定もある。他に、ボートの構造については、安全上の規定(例:バウポールを装着すること。シューズがすぐに脱げるようにかかとを拘束する紐などをとりつけること、バウコックス(コックスが前に乗るタイプ)の開口部が脱出しやすく開いていること、浮力室が分かれていること、オールのブレード(水につけるところ)の厚みなど)がある。

競漕艇の主な艇種

種目	略号	舵手	漕手	タイプ	全長	重量	艇速	解説
エイト	8+	○	8名	スイブ艇	約17m	96kg	100	漕艇の中では最も速い。
舵手なしクォドルブル	4×	—	4名	スカル艇	約12m	52kg	96	エイトについて速い。
舵手つきクォドルブル	4×+	○	4名	スカル艇	約13m	53kg	92	日本でジュニア、女子種目で復活
舵手なしフォア	4—	—	4名	スイブ艇	約12m	50kg	93	国際的にはつきフォアよりも主流。
舵手つきフォア	4+	○	4名	スイブ艇	約13m	51kg	90	日本では最も普及。
ダブルスカル	2×	—	2名	スカル艇	約10m	27kg	88	2人漕ぎでは一番速い。
舵手なしペア	2—	—	2名	スイブ艇	約10m	27kg	84	最も繊細さなバランス感覚が必要。
舵手つきペア	2+	○	2名	スイブ艇	約11m	32kg	79	シングルスカルより遅い。
シングルスカル	1×	—	1名	スカル艇	約8m	14kg	80	唯一の個人種目。

重量: 最小重量 艇速: エイトを100としてのおよその艇速

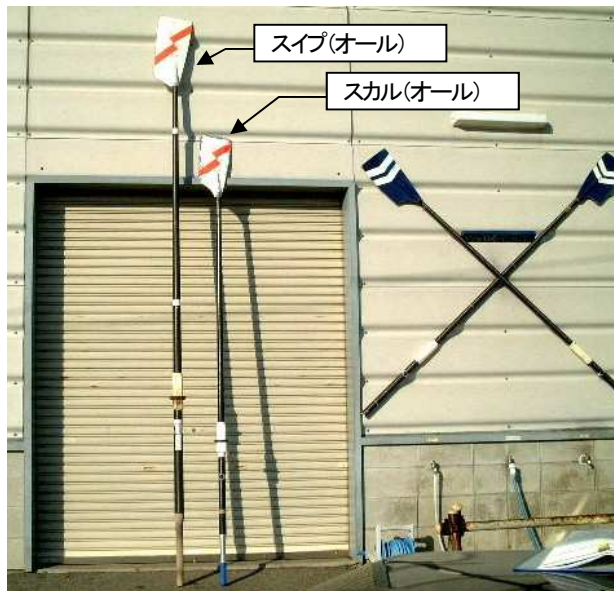
3 オール

Oars and Sculls

オールには、大きく2つのタイプがある。

種類	1人の漕手が	長さ	重量
スイブ	片側1本を漕ぐ	約3.8m	2.5kg
スカル	両側計2本を漕ぐ	約2.9m	1.3kg×2

スイブとスカルは、そのオールを使う「艇」の呼称としても用いられる(→スイブ艇、スカル艇など)。また「オール」を、狭義のスイブだけの意味に使うこともある。



スイブオール(左)は長く、スカルオール(右)は短い。

4 艇の種類(競漕種目)

Category of the Boat

現在、国際的に共通の競漕艇は、すべてシェル艇で、ハル(艇体の横断面が円弧状で、キール(竜骨)が外に張り出していない。外板は薄くなめらかで、材質は、昔は木製だったが、現在では炭素繊維・アラミド繊維などの新素材が主流である。シェル艇には現在9つの種類がある(下記)。

他に、日本では、ナックル艇(大半はナックルフォア)がある。ナックルフォアは、つきフォアと同じ舵手付きの4人漕ぎスイブ艇だが、船型(横断面形状)が指関節を曲げたように平面的で、重い。1990年前半に公式競技種目としては廃止された。しかし市民レガッタや初心者の練習用などでは、現在も広く使われている。

オーシャンスカルは、偏平で安定の良いダブルスカルの一種で、中学のレースなどで使用されている。